

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために ～令和5年度 全国学力・学習状況調査結果から～

令和5（2023）年 栃木県教育委員会

この資料は、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を基に、本県の特徴や指導に当たってのポイントをまとめたものです。本資料を活用して、「教科に関する調査」や「質問紙調査」の結果から見られる県全体の傾向を把握するとともに、とちぎの子どもの「確かな学力」の向上に向けた指導改善にお役立てください。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 教科全体の調査結果

教科全体としては、全国平均と同程度と捉えることができます。教科別に見ると、小学校算数においては、平成31年度に「知識」と「活用」の問題が一体化した出題形式になって以降初めて、全国平均正答率を上回りました。しかし、中学校数学、中学校英語については、全国平均をやや下回る結果が、ここ数年続いています。

栃木県の調査結果と自校の調査結果を比較して、共通点や差異点を分析し、日々の学習活動の改善・充実を図っていきましょう。



○ 栃木県公立（上段）と全国公立（下段）の平均正答率

〈小学校第6学年〉

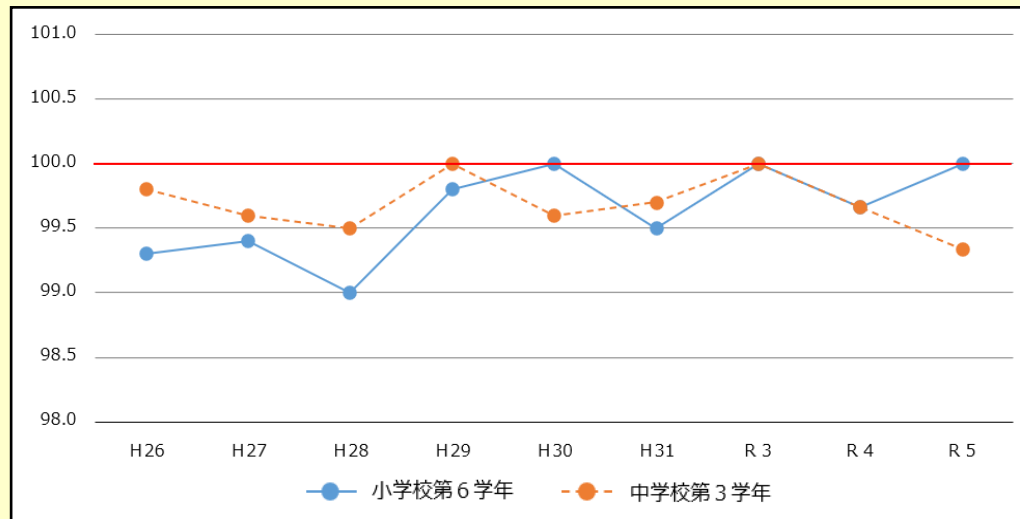
問題	H31	R3	R4	R5
国語	64.0 〔63.8〕	65 〔64.7〕	65 〔65.6〕	67 〔67.2〕
算数	65.2 〔66.6〕	69 〔70.2〕	62 〔63.2〕	63 〔62.5〕

- ※ 令和2年度は、全国学力・学習状況調査を実施していない。
- ※ 国の方針に従い、令和3年度より県の平均正答率を整数値で示している。

〈中学校第3学年〉

問題	H31	R3	R4	R5
国語	73.0 〔72.8〕	65 〔64.6〕	69 〔69.0〕	70 〔69.8〕
数学	59.1 〔59.8〕	57 〔57.2〕	49 〔51.4〕	50 〔51.0〕
理科			50 〔49.3〕	
英語	55.0 〔56.0〕			44 〔45.6〕

○ 栃木県（公立）の標準化得点の平均値の推移



- ※ 標準化得点とは、全国平均が100、標準偏差が10となるように標準化された得点です。全国学力・学習状況調査は、年度ごとに設問数や問題の難易度を揃えていないため平均正答率による年度間の比較はできませんが、標準化得点により、過去の調査結果との相対的な比較をすることが可能となります。

標準化得点の推移を見ると、小学校においては、平成26年度から少しずつ右肩上がりとなり、ここ数年は横ばいの状態が見られます。

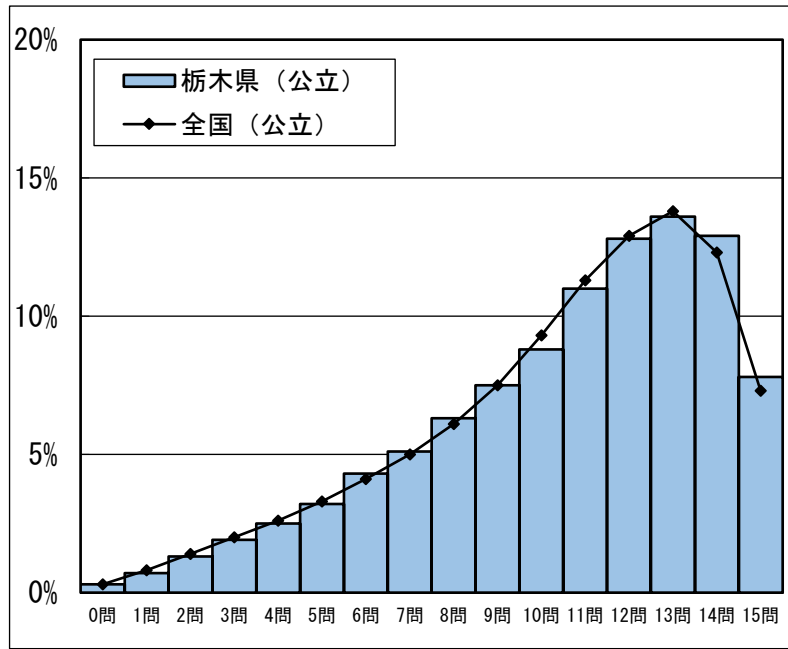
中学校においては、横ばい状態でしたが、令和3年度以降低下している傾向が見られます。



③ 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	69.3
		(2)情報の扱い方に 関する事項	2	63.8
		(3)我が国の言語文化 に関する事項	3	76.1
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・ 聞くこと	3	82.1
		B 書くこと	2	62.4
		C 読むこと	4	63.9
評価の観点		知識・技能	7	70.6
		思考・判断・表現	9	69.6
問題形式	選択式		7	72.8
	短答式		4	67.3
	記述式		4	68.3



〈設問別正答率〉

※ 言葉：言葉の特徴や使い方に関する事項
 話す聞く：話すこと・聞くこと
 情報：情報の扱い方に関する事項
 書く：書くこと
 言語文化：我が国の言語文化に関する事項
 読む：読むこと

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率		無解答率 (%)
		知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識 技能	思考 判断 表現	態度	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国 との差	
		言葉	情報	言語 文化	話す 聞く	書く	読む									
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する				1 ア				○		○			87.0	-0.5	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する		1 ア					○		○				65.7	0.6	0.1
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する				1 エ				○		○			76.1	-0.5	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く				1 エ				○			○		83.2	0.7	10.4
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	1 ウ						○			○			90.2	-0.9	0.1
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する					2 エ			○		○			63.9	0.9	0.3
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する					1 ア			○		○			73.4	-0.8	0.2
2四	自分がこれかどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く			2 エ		2 オ		○	○			○		69.3	1.8	3.6
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する					1 エ				○		○		53.1	-1.2	0.4
3二	漢字を書く（おし量って）	2 ウ						○				○		48.4	4.5	10.1
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く		2 ア					○				○		61.9	0.1	1.9
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く					1 ウ			○			○		71.6	-0.5	10.0
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）			1 ア				○				○		84.3	1.8	3.1
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）			2 イ				○				○		74.5	0.4	4.6
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く					1 エ			○			○		49.1	-0.9	20.7

【中学校国語 1三】

出題の趣旨： 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる。
平均正答率 県 76.1% (全国 76.6%) 無解答率 県 0.2% (全国 0.2%)

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

- 誤答である解答類型1、3、4の反応率の合計は23.7%であり、このように解答した生徒は「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること」に課題が見られる。特に解答類型4を選択した生徒は、南さんが、星野さんの「毎日、こうした課題の解決に頭を悩ませています。」という発言を受けて、星野さん自身の考えや体験を引き出そうとしていることを理解できていないと考えられる。また、「私は美術部に所属しているのですが、よいアドバイスが浮かばず、作品の制作が滞ってしまうことがあるのです。」という南さんの発言が、自分の体験を関連付けて述べているのではなく、星野さんとは異なる立場の意見を述べていると誤って捉えたものと考えられる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 話し手に質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。その際、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりできるように指導することが大切である。授業では、実際にインタビューをする学習の中に、共通の目的や状況を設定し、それらに応じた質問の仕方や内容、適切なタイミングなどを検討する活動を位置付けることが考えられる。その際、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができたか、発言の仕方が効果的であったかなどを振り返ることが重要である。振り返り際には、録画したインタビューの動画を視聴するなど、ICT機器を活用することも効果的である。

1

南さんは、総合的な学習の時間に、「社会で働く上で大切なことを考える」という学習に取り組んでいます。インタビューで情報を集めていた南さんは、電化製品を開発している星野さんの記事に興味をもち、会社を訪問して星野さんにインタビューをしました。次の「インターネットの記事」「インタビューの様子」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「インタビューの様子」

南 青空中学校の南と申します。先日、インターネットで、星野さんの記事を見ました。今日は、星野さんの製
品開発に対する思いについて、詳しくお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

三 「インタビューの様子」の「線部②」課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出しているのですか。私は美術部に所属しているのですが、よいアイデアが浮かばず、作品の制作が滞ってしまうことがあるのです。」について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 正しい情報を引き出すために、自分が事前に調査したこととの相違点を指摘しながら質問をしている。
- 2 さらに聞きたい話を引き出すために、星野さんの発言に自分の体験を関連付けて質問をしている。
- 3 一般的な考えを引き出すために、これまでの具体的な事例についての話を整理して質問をしている。
- 4 新たな意見を引き出すために、星野さんとは異なる立場の意見を取り上げながら質問をしている。

【中学校国語 3一】

出題の趣旨： 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。
平均正答率 県 53.1% (全国 54.3%) 無解答率 県 0.4% (全国 0.6%)

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

- 誤答である解答類型1から3の反応率の合計は46.5%であり、誤答した生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られる。「もち」を「もったため」に直すことで、「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を捉えることができなかったと考えられる。


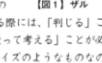
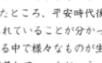


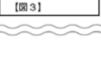

＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切である。授業では、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。

3

山田さんは、国語の時間に、言葉に関する興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「判じ絵」について 山田 光一

- はじめに 学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることになった。
- 調査方法 学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。
- 調査結果
 - 「判じ絵」とは何か  判じ絵とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読した謎じみのものである。(ア)ただし、のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じること」つまり、知っていることと見えない「」が重要なことになる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」など考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができている。
 - 「判じ絵」の解読の面白さ  「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。
  

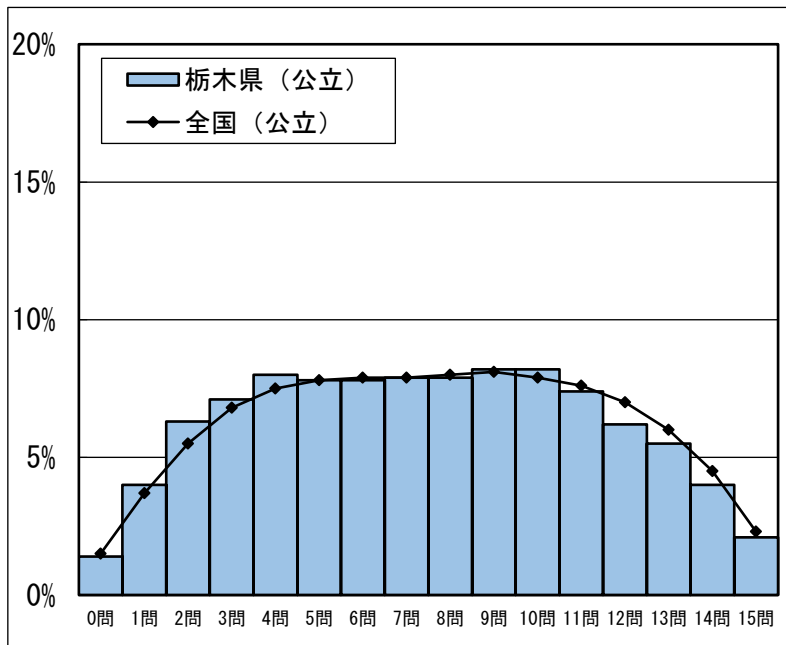
一 山田さんは、「1. はじめに」の「線部①」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
- 2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
- 3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
- 4 「判じ絵」を調べることになった理由を明確にしようとした。

④ 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領 の内容	A 数と式	5	61.4
	B 図形	3	31.8
	C 関数	4	50.0
	D データの活用	3	48.2
評価の観点	知識・技能	10	54.3
	思考・判断・表現	5	40.7
問題形式	選択式	4	43.0
	短答式	6	61.9
	記述式	5	40.7



〈設問別正答率〉

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率			無解答率 (%)
		数と式	図形	関数	データの活用	知識技能	思考判断表現	態度	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国との差	栃木県 (%)	
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	1(1) ア(ア)				○			○			40.5	-5.6	0.1	
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	2(1) ア(ア)				○			○			80.0	-0.5	3.8	
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ		1(2) ア(ア)			○			○			28.9	-1.5	0.7	
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ			1(1) ア(イ)		○			○			40.9	-1.9	0.3	
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める				1(1) ア(ア)	○				○		46.6	0.5	10.2	
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	1(1) ア(ウ)				○				○		88.4	-0.5	2.4	
6(2)	はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ(イ)					○			○		57.7	-1.1	10.1	
6(3)	はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	2(1) イ(イ)					○			○		40.2	-0.7	25.0	
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める				2(1) ア(ア)	○				○		63.7	-2.0	5.9	
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				2(1) イ(ア)		○			○		34.2	0.6	22.6	
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く				2(1) ア(ア) イ(ア)		○			○		57.2	-0.3	8.8	
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ				2(1) ア(イ)		○			○		61.8	0.1	0.9	
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する				2(1) イ(イ)		○			○		40.2	-2.6	12.6	
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する				2(1) イ(ア)			○		○		31.1	-1.0	22.9	
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く				2(2) ア(イ) イ(ア)		○			○		35.4	-1.6	15.2	

【中学校数学 3】

出題の趣旨： 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる。
 平均正答率 県 28.9% (全国 30.4%) 無解答率 県 0.7% (全国 0.8%)

③ 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。
- イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。
- ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
- エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ 解答類型を見ると、2点を含む平面や1つの直線上にある3点を含む平面は幾つもあることを捉えることができている生徒が、それぞれ3割程度おり、空間において平面がどのように決定されるかを理解することに課題が見られる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 空間における平面が1つに決まるときの条件について、下敷きなど身近にあるものや直方体など具体物を用いて、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。授業を行う際には、まず、空間に無数の平面が存在することをイメージできるようにすることが大切である。その上で、「空間における平面が1つに決まる」とはどのようなことか、また、今回の調査問題の選択肢のような平面とはどのようなものなのかを、具体物を用いて実感できるようにすることが必要である。その後、平面が1つに決まるための条件が不十分なものを取り上げ、どのような条件が必要かを考察する活動を取り入れることが考えられる。また、カメラを固定する三脚やグランドピアノの脚が3本であることなどを取り上げ、身の回りにある事象を図形として捉え、空間における平面の決定の理解を深めることも有効である。

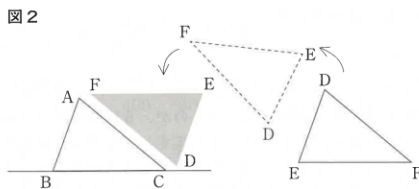
今後とも平面の決定条件を考える際には、例えば、生徒自らが直方体の図を描いたり、身近にある消しゴムや筆箱などを考えるヒントに使ったりしながら、与えられた条件をイメージできるように支援していくことも必要である。

【中学校数学 9 (1)】

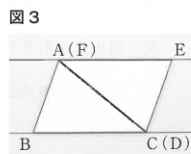
出題の趣旨： ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。
 平均正答率 県 31.1% (全国 32.1%) 無解答率 県 22.9% (全国 24.7%)

⑨ 方法1

◇ △ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、△DEFを回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。



◇ 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。



優奈さんは、方法1の直線BCと直線AE、方法2の直線BCと直線AFがそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは、それぞれCA=CB、AC=AEで、△ABC≡△CEAです。

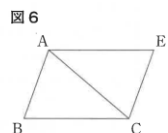


図6において、BC//AEであることは、すでにわかっている△ABC≡△CEAをもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。BC//AEであることを証明しなさい。

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ 正答の条件とそれぞれの根拠を十分に示せた生徒の割合は平均正答率31.1%のうち17.5%であった。誤答を見ると、正答の条件である「 $\angle BCA$ と $\angle EAC$ が等しいこと」や、 $BC \parallel AE$ を示すために、「錯角が等しい」ことを示すことができないなど、証明するためにはどのような条件が必要なのか、その根拠を明らかにすることに課題が見られる。また、無解答率が22.9%であることから、記述に関しては、引き続き指導を工夫することが必要である。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 証明するためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

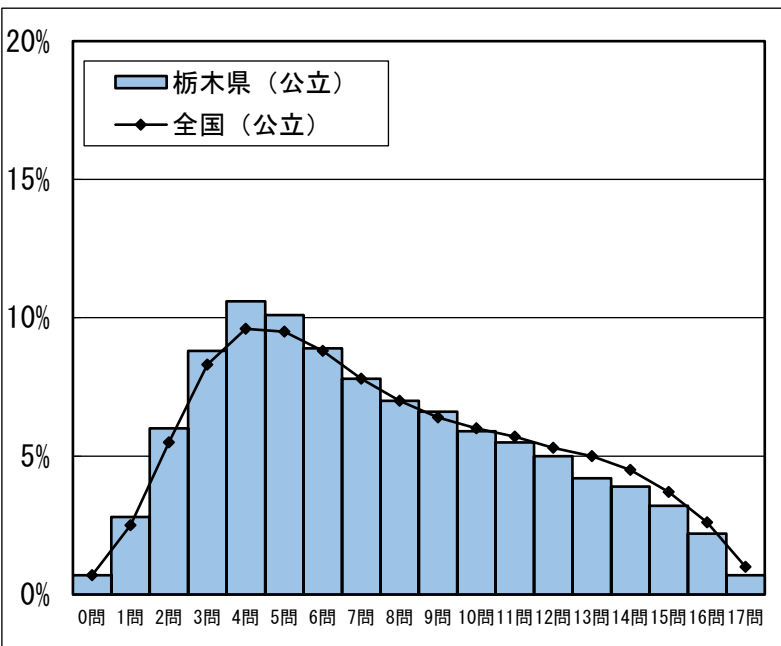
授業を行う際には、証明したい事柄について、結論を導くためには、何を示せばよいのか、そのための根拠となる事柄は何かを確認し、見通しをもつ活動を取り入れることが考えられる。例えば、この問題では「2直線が平行であること」を導くためには「錯角が等しいこと」を示す必要があり、その「錯角にあたる2つの角が等しいこと」を示す根拠が「合同な図形の対応する角が等しいこと」であるなど、結論までの過程を、ペアやグループで話し合う活動が考えられる。

また、証明を書くことについては、必要以上に証明の書き方にこだわることをせず、生徒が自分なりに工夫して証明し、よりよいものへと互いに高めていくことが大切である。そのために、日々の授業において、「等しいと考える理由は、なぜですか」などと問い返すなど、根拠に当たる部分を常に考えられるように、意図的に指導することが重要である。

⑤ 中学校 英語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領 の内容	(1) 聞くこと	6	56.7
	(2) 読むこと	6	49.4
	(3) 話すこと [やり取り]	4	12.9
	(4) 話すこと [発表]	1	4.2
	(5) 書くこと	5	21.2
評価の観点	知識・技能	9	49.1
	思考・判断・表現	8	37.6
問題形式	選択式	12	53.0
	短答式	3	26.7
	記述式	2	13.0



※ 話すこと調査（[やり取り] [発表]）の結果は、上記のグラフには含まれていません。

〈設問別正答率〉

問題 番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率
		聞く こと	読む こと	話す こと やり 取り	話す こと 発表	書く こと	知識 技能	思考 判断 表現	態度	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国 との差	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			76.0	-3.0	0.0
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			62.9	-1.5	0.1
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			48.7	-1.1	0.1
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	ア						○		○			59.7	-1.4	0.1
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	ア						○		○			40.5	-0.7	0.1
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	ウ						○		○			52.3	-2.5	0.4
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する		○				○			○			55.1	-0.9	0.2
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する		○				○			○			61.4	-3.1	0.2
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する		ア					○		○			33.4	-2.5	0.2
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する		○				○			○			57.4	-2.4	0.2
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する		イ					○		○			34.0	-0.7	0.7
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する		ウ					○		○			54.7	-1.4	0.8
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く				ウ			○			○		19.2	-0.3	30.0
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話がり立つように英文を完成させる				ア		○			○			36.8	-3.6	6.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話がり立つように英文を完成させる				ア		○			○			16.9	-4.0	11.8
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える				ア		○			○			26.2	-2.8	26.1
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く				イ			○			○		6.8	-0.6	20.7

【中学校英語 8(1)】

出題の趣旨： 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる。

平均正答率 県 54.7% (全国 56.1%) 無解答率 県 0.8% (全国 0.8%)

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful.

When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I



could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ 本設問は、ブラウン先生が作成したロボットに関する短い文章を読み、先生が最も伝えたいことは何かを選ぶ問題である。1から4までの選択肢は、全てブラウン先生が作成した文章の中に書かれている内容である。選択肢1から3の誤答を選択した生徒の合計は44.5%であり、文章全体を読み通した上で、書き手が伝えようとしている「要点」を捉えることに課題があると考えられる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 社会的な話題に関する文章を読んで要点を捉えるためには、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会を設ける必要がある。その際、文章から複数の情報を取り出し、その説明の中で最も重要な情報はどれかを考えさせたり、文章全体としての構成や論理の展開を押さえた上で、書き手が最も伝えたいことを考えさせたりしながら、要点を捉えられるようにしていくことが大切である。

さらに、文章の要点を把握させた後に、内容に対する賛否や感想、自分の考えとその理由などをペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりすることで、内容や情報を整理し、思考を深めることができると考えられる。

【中学校英語 8(2)】

出題の趣旨： 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

平均正答率 県 19.2% (全国 19.5%) 無解答率 県 30.0% (全国 29.3%)

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

○ 正答率が19.2%であることから、社会的な話題に関して書かれた文章を読み、自分の考えとその理由を書くことに課題があると考えられる。

解答類型を見ると、書き手の意見に対する自分の考えを書いているが、その理由を書いていない類型4に含まれる生徒が29.2%と、高い反応率であった。このことから、自分の考えとその理由を書く際は、自分がなぜそのように考えるのか、その理由を具体的に書くことができるよう、指導を工夫する必要がある。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えや気持ちなどを書いて伝える言語活動を行う際は、話すことの言語活動と統合させ、まずは、生徒同士で口頭で伝え合い、それぞれの考えやその理由を発展させたり、深化させたりした上で、その内容を書いてまとめるなど、「話すこと」から「書くこと」の順に段階的に指導することが大切である。

さらに、自分の考えを英語で書いてまとめた文を、ペアやグループで読み合い、内容や表現の仕方について、互いにフィードバックするなどの活動を行うことも考えられる。その際は、綴りや語順、文法などの正確さだけでなく、例えば、一番伝えたいこととその理由が書かれているかなど、内容面にも意識が向けられるよう助言し、最終的には、生徒自身が文章を推敲し、修正できるようにすることも大切である。